

認定NPO法人 クリエイティブサポートレッツ

久保田 翠 | くぼた みどり

静岡県浜松市

ークリエイティブサポートレッツ
誕生の経緯ー

久保田・私は芸術大学を卒業したあと、建築設計の仕事をしていました。一生仕事をしていこうと意気揚々と社会に出て行つたんですが、結婚して子どもを出産すると人生が大きく変わり始めました。今までは自分のためだけに時間を使つていたのですが、子どもができるとそうはいかない。1人目を産んだときに苦労したので、2人目のときは育休の準備もして保育園も決めて、準備万端で出産に臨んだら障がいのある子どもが生まれたんです。

山出・その子が壮君ですね。

久保田・そう。先天性の口唇・蓋裂で体もすごく弱く、3回の手術が必要でした。育児で仕事を一旦中断して、3年間専業主婦をしました。子育て自体は充実していたのですが、障がいのある子どもは預かってくれるところがないから、自分での時間がほしくても作れないんですね。壯は音楽がとても好きな子だから時間がほしくても作れないんです。だからリトミックの教室を渡り歩だつたので、リトミックの教室を渡り歩



いたけど、みんなと一緒にできないから参加させてもらえませんでした。社会に居場所を見つけられず、自分と息子が社会から周縁化されていくように感じました。当時通っていた障がいのある子どもの療育施設で、「私は1人の人間として仕事をしたい。子どもも普通に育てたいけれどそれが叶いそうにないから保護者と集まって勉強会をして解決したい」と保護者、家族が幸せになれる場所を作らなければいけない、そう思つて立ち上げたのがクリエイティブサポートレッツ(以下、レッツ)です。

ー居場所を作るー

久保田・福祉という全く知らない世界で、何ができるのかわからず悶々としていたとき、たまたま2000年の『エイ SHOW-TEN』はアート活動に近いと考えていたのですか？

久保田・いいえ。障がいのある子どもが描いた絵が浜松市の広報誌の表紙に採用されたことがあったので、外部からアート活動だと思われていたんです。するとレッツに絵画造形が好きな人が来るようになつてくる。だけど、その人たちは絵画造形だけに注力してしまい、障がいのある子どもたちに興味を持つてくれないんです。

一方で福祉関係者からは「なぜアート活動をやつてるのか」と聞かれるんです。福祉の人とアートの人はなかなか理解しあえないんです。どちらかはつきりさせた方がいいとも言われましたが、私はどつちつかずだったんですよ。200

ブルアート・フォーラム』に参加して『たんぽぽの家』の播磨靖夫さんと関根幹司さんに出会い「これだ」と思いました。彼らの「アートと福祉は融合できる」という言葉には、ものすごく希望が持てました。それから企画書を書き、「子どもも保護者も認めてくれる、何をやってもいい場所を作りたいからご協力ください」と方々にお願いをして、集まつた7人のお母さんたちと一緒にレッツを作りました。設立時はボランティア団体で、お母さんの1人が場所を提供してくださつて「日頃できなきことを思いっきりやろう！」というコンセプトで、『レッツチャレンジヤーハウス』を始めました。建物に色を塗りたかつて、そこで音楽や絵画造形、英語や舞蹈などの講座を行いました。けれど3年経つと家庭の状況が変わり始めました。通つてくる子の兄弟が進学校を拠点に「アート」と「ケア」の視点から、障がいのある方の暮らしやアートを通じての社会参加のサポートから仕組みづくり、研究活動、情報発信、配食サービスなど、幅広い活動を展開している。理事長は「エイブルアート」の提唱者である播磨靖夫。

注1 たんぽぽの家
奈良市を拠点に「アート」と「ケア」の視点から、障がいのある方の暮らしやアートを通じての社会参加のサポートから仕組みづくり、研究活動、情報発信、配食サービスなど、幅広い活動を展開している。理事長は「エイブルアート」の提唱者である播磨靖夫。

級して習い事をするようになると、家族全員で通うことができなくなり遊びに来る子が減りはじめたんです。さらに設立メンバーの1人から「高校卒業後もずっと一緒に居られるような施設を作りたい」と相談を受けたんです。私は息子が18歳になつたら自立させたいという意志があつたので、この意見に賛成できませんでした。そういう意見の相違から、この場所を離れることになりました。

その後、2004年のNPO法人化とともに規模を縮小することを決め、自宅に『レッツチャレンジヤーハウス』を置くと、それまで300人程度だった会員が100人ほどに減りました。講座も最初は兄弟で参加してくれのですが、受講しているのは健常の子で、障がいのある子はただ周りを走り回つているだけなんです。やがて健常者の兄弟が進級してコミュニケーションが変わると、障がいのある子たちも来なくなる。来てくれるのは保護者と一緒に講座を受けられる中・軽度の障がいのある子と健常の子なんですね。するとその子たちのための講座プランになつてしまふので、そのなかに壮は入れません。壮を車に閉じ込めて、ほかの

久保田・ボランティアで活動していくことに限界を感じていた頃、市が浜松市の最南端にある6階建ての保養施設を買い上げて福祉施設にする事業を立ち上げ、1階の広い食堂を運営する人を公募していました。とにかく場所がほしいかったので、すぐに手を挙げてそこに拠点を移しました。けれど浜松市の南の果てに障がいのある方だけ閉じ込めてもいいことがないと思ったので、助成金を申請して、一生懸命外へ開こうとしました。子どもたちの表現活動を広げるプロジェクトを企画したのですが、なかなか福祉施設に興味を持つてもらえませんでした。それなら街のなかに開いてさまざまな人と交流しようと思い、障がいのある子どもたちの絵を商店街のなかに潜ませるイベント『商展06 SHOW-TEN』を実施しました。そのときに初めて商店街の方にお会いして、たくさんお話をさ

子を教えたこともありました。やっぱり私一人では無理だと思い、ある程度の広い場所と財源や雇用がないと、続けていくことは難しいと思いました。

ーアートなのか福祉なのかー

久保田・ボランティアで活動していくことに限界を感じていた頃、市が浜松市の最南端にある6階建ての保養施設を買い上げて福祉施設にする事業を立ち上げ、1階の広い食堂を運営する人を公募していました。とにかく場所がほしいかったので、すぐに手を挙げてそこに拠点を移しました。けれど浜松市の南の果てに障がいのある方だけ閉じ込めてもいいことがないと思ったので、助成金を申請して、一生懸命外へ開こうとしました。子どもたちの表現活動を広げるプロジェクトを企画したのですが、なかなか福祉施設に興味を持つてもらえませんでした。それなら街のなかに開いてさまざまの人と交流しようと思い、障がいのある子どもたちの絵を商店街のなかに潜ませるイベント『商展06 SHOW-TEN』を実施しました。そのときに初めて商店街の方にお会いして、たくさんお話をさ

せていただきました。こういう活動を始めたと「アートなのか、福祉なのか？」という問い合わせが多く投げかけられました。私はそれにうまく答えることができず、福祉でもありアートもある、福祉でもないアートでもないような、言葉にできないジレンマが生まれました。

久保田・いいえ。障がいのある子どもが描いた絵が浜松市の広報誌の表紙に採用されたことがあったので、外部からアート活動だと思われていたんです。するとレッツに絵画造形が好きな人が来るようになつてくる。だけど、その人たちは絵画造形だけに注力してしまい、障がいのある子どもたちに興味を持つてくれないんです。

一方で福祉関係者からは「なぜアート活動をやつてるのか」と聞かれるんです。福祉の人とアートの人はなかなか理解しあえないんです。どちらかはつきりさせた方がいいとも言われましたが、私はどつちつかずだったんですよ。200

思っています。障がいのある方と社会との間に隔絶はないけれど、レツツにいる人たちが100パーセント受け入れられていないこともわかっています。でも果たして社会が正しいのでしょうか。私たちの方がいつも正しくない、かわいそうな人たちなのかというとそうではないと思います。むしろ社会の方が疲弊していくかわいそうです。社会側に立つている人は、経済至上主義や今ある価値観に翻弄されている気がします。精神障がいつて、そういう感覚が正常であるがゆえに苦しむのではないかと思うんです。

現代は人に優しくない社会なので、少しそれを逸脱してもいいと思っています。いつも、逸脱した側から「こっちの方が絶対面白いですよ」って発信しようとしています。

確かに障がいのある家族を持つと大変です。だけど誰が悪いということではなく、そこではじめて知恵や創造力が生まれるんです。問題が起きたとき人間は考える。それからいろんな人が助けてくれて結集する。そういう意味でいい社会だと思います。誰かを否定や非難するのではなく、人間の持つクリエイティビティがたくさん生まれているという事

実を見てほしいんです。そうすると大変な状況にある人たちの気が楽になると嬉しい、それがアートの役割だと思ってます。どうにもならない問題をほどいてくれたり、笑いや楽しいものに変えてくれる、そのきっかけになるのがアートかなんです。今の私は、レツツがアートか福祉かどうかはどういちどもいいんです。障がいに対していろんな人がさまざまなか形で対峙することによって、社会を柔らかくしていくことの方が重要だと思っています。



2017年に開催された『表現未満、実験室』では、「アルス・ノヴァ」で日常的に練り広げられていることを浜松駅近くのビルに持ち込み、施設利用者が出張滞在を行った。

